

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第一 2:10~16 「キリストの心」

[10]「神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを悟り、神の深みにまで及ばれるからです」

「これ」とは2:7で言われている、「隠された奥義としての神の知恵」であり、それは私たち人間に対する神の救いの御計画全体のこと。「啓示」とは人間には理解できず、発見できない物事を神の側で人間に知らせてくださること。神はこのことを御霊によって知らせてくださった。御霊の働きによって私たちは救われ、変えられ、神のみこころを悟ることができるようにされる。→ヨハネ3:8 御霊ご自身が三位一体の神であられるので、神の深み、その救いの御計画のすべてを私たちに教えることができる。

[11]「いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかには、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにはだれも知りません」人の心のことは、その人自身、その人の霊しか知らない。同様に、神の御霊が教え示してくださらない限り、私たち人間には神のみこころは何も知ることができないのである。

[12]「ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜ったものを、私たちが知るためです」

「この世の霊」とは、神から離れたこの世の人的知恵の生み出す働きのことと考えられる。パウロはここですべての信仰者を支えているものは、「この世の霊」ではなく、「神の御霊」を受けたという事実なのだということを教える。この神の御霊によって私たちは、恵みによって神から賜ったもの、すなわち神の救いの御計画全体を知り、悟ることができるのである。

[13]「この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばをもって御霊のことを解くのです」

この「賜物」すなわち神の救いについて宣べ伝えていくためには人の知恵から出て、人を誤った理解に導くようなことばではなく、御霊に教えられたことばを用いる。それは御霊が神の救いを宣べ伝える者たちの内にあって、自由なうちにも誤りに陥らないように導き、正しく語らせると言う意味。しかし、ことばは語り継がれていく間に変化する恐れがあるので、それは文字にし、記録される必要があった。それが今日私たちが手にしている聖書である。→Ⅱテモテ3:16、ヘブル2:3~4、Ⅱペテロ1:18~21

そして、これを理解し悟るためにも人間の推測や想像、哲学などであたるのではなく、御霊に教えられ、導かれてこそ正しく理解し悟ることができるのである。

[14]「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです」

生まれながらの人間には福音が正しく語られてもそれを受け入れることができない。しかし、御霊が聞く人の心に働いてくださる時に、人は福音に応答し、信仰を持てるようになる。これは全くの神の恵みに他ならない。→エペソ1:3~6

[15-16]「御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによってもわきまえられません。いったい、『だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。』ところが、私たちには、キリストの心があるのです」

生まれながらの人は主のみこころを知らず、主の救いを理解し、悟ることができない。

16節の引用文はイザヤ書40:13からである。この引用によって、この世が神の知恵であるキリストの十字架を認めることができなかつたこと、人は神のみこころを知りえないことをパウロは示し、同時に「私たちには、キリストの心があるのです」と宣言することによって、信仰者は御霊によって主のみこころを知り、理解し、信じるものとされていることを示す。「キリストの心」とはここでは個人的、内面的、知、情、意の精神的作用を指しているのではなく、キリストにおいて啓示された神のみこころ、神の救いの計画といった信仰者の一致の根拠となる基準のこと。

→ヨハネ15:15、I コリント1:10

このキリストの心を自分たちの心として、信仰者はさらにいっそう信仰の歩みを進めていかなければならない。